

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

平成 30 年 3 月 27 日改正
(平成 30 年 4 月 1 日適用)

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 岐阜後見センター

②施設・事業所情報

名称：岐阜県立ひまわりの丘第三学園	種別：障害者支援施設
代表者氏名：藤井 俊朗	定員（利用人数）：施設入所 100名 生活介護 120名
所在地：岐阜県関市桐ヶ丘3丁目2番地	
TEL：0575-23-2553	ホームページ： http://www.gifu-fukushi.jp/himawari/3/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 昭和48年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 岐阜県福祉事業団	
職員数	常勤職員： 37名 非常勤職員 38名
専門職員	（専門職の名称） 名
	施設長 1名
	次長 1名
	サービス管理責任者 3名
	事務員 2名 事務員 2名
	看護師 1名 看護師 2名
	栄養士 1名 業務員等 1名
	生活支援員 28名 生活支援員 33名
施設・設備の概要	（居室数） （設備等）
4人部屋 24室 1人部屋 10室	食堂 デイルーム ワーカー室 事務室 会議室 浴室 静養室 作業棟浴室

③理念・基本方針（※転載）

【理念】 誰もがその人らしく生きる

【基本方針】

1. 人権を尊重し、利用者一人ひとりが安心・安全で、自分らしく生活ができるよう支援します。
2. 専門的な知識・技術と「もてなす心」で良質なサービスを提供します。
3. 利用者の社会参加の機会を広げ、地域の人々との交流を深めるとともに、開かれた施設づくりに努めます。

④施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

- ・昭和42年に知的障害者施設として開設し、昭和52年には県立ひまわりの丘学園として発足し、県下の知的障害者施設の中核施設として積極的な障害者支援に取り組んでいる。
- ・短期入所と日中一時支援を実施している。特に入所利用者については、重度の行動障がい者を受け入れ、関係機関と連携をして安心した生活が送れるようにしている。
- ・日中活動の一つである喫茶「あすなる」を営業し、利用者や家族の他、地域の方にも利用してもらい、和みの場となっている。
- ・パン工房「ソレイユ」で生産したパンは、利用者の朝食や職員、近隣保育所からの注文に応じたり、行事の際には販売し、地域の人々から好評を博している。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成30年6月20日（契約日） ～ 平成31年2月15日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	2回（平成25年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

<職員のスキルアップのため、外部研修への参加や外部講師を招いての研修を継続的に実施している。>

外部講師を招いた研修等、知識を高める研修を継続的に実施している。とりわけ強度の行動障がいについての支援方法や職員のストレスケアマネジメントに重点を置いた研修を行っている。

<詳細な事業計画が策定されている。>

詳細な事業計画が策定されている。中・長期ビジョンが明示されており、良質なセグメンテーション、事業ドメインの明確化による持続的な安定経営を目指す内容になっている。また、事業経営分析を実施し、経営体質の強化に向けた取り組みを行っている。

<各種規程・マニュアル類、様式集が整備されている。>

各種規程集・マニュアル類、様式集について、しっかりと整備されており、ICT化も推進している。

<地域に開かれた施設づくりに努めている。>

地域交流としての様々な学園行事、近隣大学と共催の「たのしみん祭」や「学園祭」、「夏祭り」等は毎年盛大に開催され、様々な障害者施設、関係団体、地域の人々の参加があり、地域に開かれた施設づくりに努めている。

◇改善を求められる点

＜今後の利用者の高齢化に伴う重度化や障がいの重複化に対応できるような支援内容工夫に向けた取り組みに期待したい。＞

利用者の高齢化に伴う障害の重度化や障がいの重複化が進行する中、また、強度行動障がいの特性のある利用者の受け入れ増加が予定される中で、今までの支援に加え、新たな支援内容や技術が望まれる。職員体制を工夫等して、一人ひとりに目を向けた支援を目指し、個性に合わせた個別指導を行っているが、今後とも、どの利用者にもまんべんなく支援を行き届けるため、担当制、班制、棟制の仕組みの再検討や、介護も含む関わり方や支援技術の研究、社会資源のさらなる活用等、支援内容の工夫に向けた取り組みに期待したい。

＜アメニティを高めた居住空間の確保に向けた取り組みに期待したい。＞

現在、改築中であり、平成33年度末までの使用で、新築棟に転居することになっているが、老朽化は否めない。寝具の購入や壁紙等でのリフォーム等居室環境等にさらなる改善に向けた取り組みを期待したい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

利用者の更なる重度化と高齢化に対応できるよう、職員の専門性を高めスキルアップが図れるよう研修を重ねるとともに、学園内で研修内容を共有できるようにしていきます。また、組織や体制を見直し、個別支援が充実できるよう改善していきます。

利用者の生活する場として生活棟等の環境を整え、安心安全が提供できるよう必要に応じて対応していきます。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。